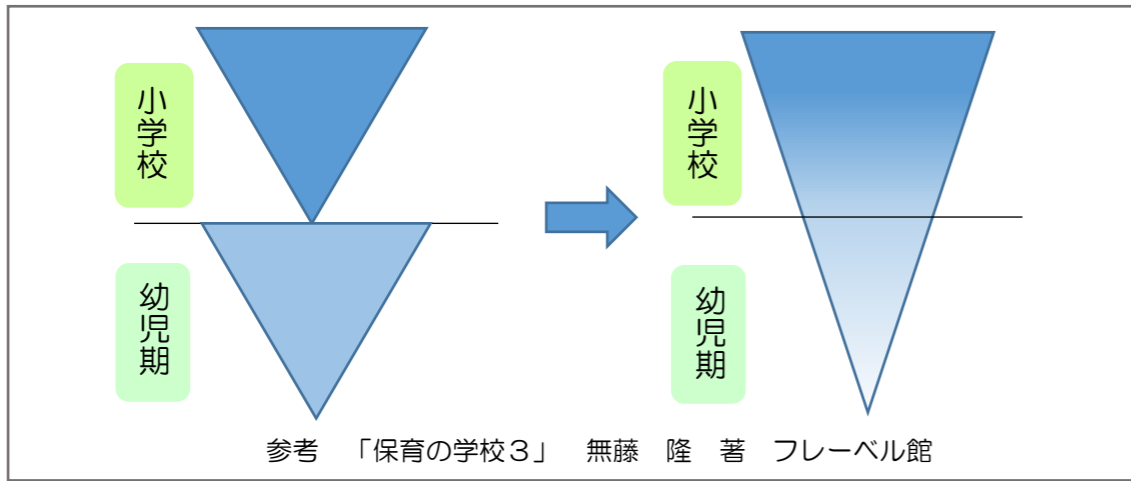


やまなし保幼小連携・接続ガイド ～子供の育ちと学びをつなぐ～

【概要版】

【基本的な考え方】小学校の学びは0からのスタートではない

- 園・所等と小学校双方が、育ちや学びの連続性・一貫性を意識したカリキュラムに基づき、教育活動を展開し、その時期にふさわしい生活や活動を通して、資質・能力を育てていくことが重要である。
- 園・所等は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、環境構成を工夫したり活動を組んだりして、資質・能力を育み、小学校にその姿を語り、共有することで育ちと学びをつなぐ。
- 小学校は、幼児教育での育ちと学びを基礎として、その上に学びを積み重ね、広げていくことが求められる。
- つまり、「**小学校の学びは0からのスタートではない**」という視点が重要である。



育ちと学びをつなぐカリキュラム

○ 架け橋期のカリキュラムの開発

・保幼小が**合同研究会**等を持ち、協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら作成する。

～合同研究会のもち方(例)～

1 メンバー

自治体担当、園・所・小学校の管理職、年長児担任、1年生担任、地域関係者、有識者 等

2 研究会の時期・内容

【6～7月】

- ①架け橋期の育ちや発達についての話し合い
- ②2年間の「期待する子供像」等の話し合い
- ③新1年生の様子、スタートカリキュラムの効果等検討
- ④架け橋期のカリキュラムを土台にした、5歳児後半に実施されるカリキュラムの内容の検討

【10～11月】

- ①年長児の様子や育ちの共有
- ②実態を踏まえた、架け橋期のカリキュラムの見直し
- ③架け橋期のカリキュラムを土台にした、スタートカリキュラムの内容の検討

・架け橋期のカリキュラムを踏まえ、園・所等及び小学校は、自園・自校のカリキュラムを見直し、改善し、実践していく。

★関係者が顔の見える関係づくりをし、日常的に情報を共有したり、交流したりすることが重要である。

保幼小連携・接続の動向

○ 幼児教育の3要領・指針、小学校の学習指導要領の改訂

- ・小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂により、育てたい資質・能力が整理された。
- ・幼児教育から高等学校教育までを見通した一貫したものであり、学校段階等間のつながりが示され、保幼小の円滑な連携・接続は、不可欠な取組になった。

○ 幼保小の架け橋プログラム

国は、令和4年3月31日付けで「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」を示した。

- ・義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間(「架け橋期」)は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期。
- ・子供の成長を切れ目なく支える観点から、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、教育の内容や方法を工夫することが重要。
- ・幼児期の要領・指針や小学校の学習指導要領の理念をより徹底し、充実した教育を、「架け橋期」とそれにつながる時期、さらにはその後の時期を通じて目指していく。
- ・「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を超えて連携し、「架け橋期」にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指す。



架け橋期のカリキュラム(モデル案)

| 共通の視点 | 5歳児 | | | | | | | | | | | | 小学校1年生 | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| ①期待する子供像 | ●それぞれの園・所、小学校の目指す子供像(教育目標) ●各自治体・地域の願い | | | | | | | | | | | | ●幼児期の教育を通して育まれてきたことを基に、学習の質に大きく関わる語彙量を増やすことなど基礎的な知識及び技能を身に付ける ●感性を豊かに働かせ身近な出来事から気付きを得て考える ●自ら学びに向かう、自己の感情や行動を統制する、互いの違いと良さを認め生かして協働する | | | | | | | | | | | |
| ②遊び・学びのプロセス | ◆遊びを通して、多様な仕方で環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、環境に様々な意味や関わり方を見出す。 なんだろう・不思議だな(学びの立ち上がり) やってみたい・試したい(体験の蓄え) ねえねえ、これって…(体験の発露や協働性) こんなこともあるんじゃない? (体験知の生活や学習への応) | | | | | | | | | | | | ◆学ぶことへの意欲があり、各教科の学習内容について授業を通して個別の学習活動や協働的な学習活動をし、学んでいく。 あ、こういうことなんだね(自覚的な学びの生え) もっと知りたいな(自覚的な学びへの意欲) | | | | | | | | | | | |
| ③園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習構成等 | 5歳児のカリキュラム ○明るく伸び伸び行動したり、進んで運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活 ○身近な人と親しみ、工夫したり、協力したりして一緒に活動することを楽しめる遊びや生活 ○身近な環境に親しみ、発見を楽しんだり、考えたりすることにつながる遊びや生活 ○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活 ○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しめる遊びや生活 等 | | | | | | | | | | | | 1年生のカリキュラム ◆スタートカリキュラム ○一人一人が安心感を持ち、新しい人間関係を築けるようにする活動(ex.園で親しんだ活動(手遊び、歌、読み聞かせ)) ○生活科を中心とした合科的・関連的な指導による単元構成 ○日常生活とつながる学習活動 等。 義務教育としての基礎的な資質・能力の育成を目指した教育 | | | | | | | | | | | |
| ④指導上の配慮事項 | 先生との関わり・役割 ・幼児にとっての教材である環境を構成する。 ・環境の下で幼児と適切な関わりをする。(活動の理解者、共同作業者・共鳴する者、憧れを形成するモデル、遊びや課題解決の援助者) | | | | | | | | | | | | 環境の構成・環境づくり ・幼児が関わる環境(人、もの、出来事、時間、空間等)を教材とし、整備・構成する。 ・幼児の主体的な遊びを大切にしつつ、どのような成長を願うのかといった先生の意図を環境に込め構成する。 ・幼児教育現場における環境の工夫を取り入れ、指導の充実を図る。 ・授業で扱う学習教材だけでなく、子供が関わる環境(掲示物、教材の置き場所)等も学びに影響する環境とし、教材観を上げ、環境づくりを行う。 | | | | | | | | | | | |
| ⑤子供の交流 | ・5歳児と1年生の交流会 ・5歳児と他学年との交流会 ・5歳児の1日入学 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥関係者の交流(保育者、教諭、管理職、行政等) | ・保育参観や授業参観(先生の関わり、環境構成、幼児・児童の育ちや発達等を学ぶあう) ・合同の研究会(例:7月、11月 共通の視点をもとにカリキュラム、環境、交流等について検討する) ・要録による伝達 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦家庭や地域との連携 | ・子供の成長を共有し、肯定的に見守れるようにする。 ・保護者が安心感もてるよう支援する。 ・社会全体で子供の育ちや学びを支えるよう、関係者が連携し取組を進める。 ・生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

★実際の子どもは、豊かで多様な環境との出会いの中で、様々な学びをし、発達している。研究会等では、子供の育ちの「個性」「多様性」を念頭に議論することが必要である。
★「架け橋期のカリキュラム」は、保幼小の関係者が協働で作成する。
★共通の視点①～⑦は例示であり、合同の研究会等で改めて設定してよいものである。
★「架け橋期のカリキュラム」を共有し、自園・所、自校のカリキュラムを見直し、改善し、実践につなげる。